

学校教育目標 ◎かしこく ◎なかよく ◎たくましく ◎心ゆたかに



星に願いを

校長 佐藤 信孝

7月7日は七夕です。伝説では織り姫と彦星が、年に一度天の川を渡って会うことのできる特別な日です。館岩自然の教室での人気プログラムに「星空観測」がありますが、街の明かりも届かない館岩では、さいたま市では観測することが難しい4等星以下の星もはっきりと見ることができます。天候や月の位置にもよりますが、まさに空いっぱいの星空を眺めることができ、星が作る「川」を挟んだ「おりひめ星（こと座の一等星ベガ）」と「ひこ星（わし座の一等星アルタイル）」を観測することができます。2、3分も星空を眺めているとかなりの確率で流れ星を見ることもできます。

さて、流れ星。ある小学生がラジオ番組で天体の専門家の方に聞きました。「流れ星に願いを3回唱えられれば、願いは叶うのですか。」専門家の方は答えました。「ぼくは、叶うと思うよ。」

流れ星が光っている時間は0.2秒から0.3秒です。そして、いつ流れるか分かりません。そんな瞬間に願い事を3回も言うためには、よほどいつも願っている、願い続けている必要があります。それくらいの思いがあれば、「願いは叶う」と専門家の方はおっしゃっていました。

学校でも子どもたちには目標を立てること、そのために努力する大切さを様々な場面で経験させます。目標を実現することで達成感を得て、自己肯定感を育むことに繋がります。また、よりよい方法で努力する、努力し続けることは今後の子どもたちの可能性を広げることに異論はないでしょう。しかし、努力すれば、本当に何かを得られるのでしょうか。次のように整理してみました。

【目標の例】漢字テストで100点取る！

- ① 努力したことで目標が達成できる。（例：毎日漢字練習を行い、テストで100点が取れた）
- ② 努力したことで別の「よいこと」を得られる。（例：毎日漢字練習を行ったら、家の人に褒められた）
- ③ すぐには結果が出なかったが、努力したことでその後目標を達成できる。（例：今の学年では目標を達成できなかったが、毎日漢字練習を続け、次の学年で100点が取れた）
- ④ 努力したが、目標の結果は出ないこともある。でも別の「よいこと」を得られる。（例：毎日漢字練習を行うことで基礎学力が付き、他の教科の成績が良くなった）

参考資料 『努力の地図』 荒木博行 クロスメディア・パブリッシング

努力が目標や成果にすぐに結びつくとは限りません。そもそも努力するということは、「できないこと」に挑み続けること、失敗を数多くすることやできるために地道な別のことをし続けることであり、モチベーションを保つことが難しいものです。モチベーションを保つようにがんばりや本人が自覚しない「伸び」を認め、伝えてあげる（教育用語では「価値付ける」と言います。）ことが大切です。努力による「成果」が出るまで時間がかかることもあります。ただし、子どもたちは経験していないため、時間がかかることや別の善さにつながることを知らない、実感できないことも多くあります。だからこそ、周りにいる大人たちが「価値付け」、未来を示すことも必要です。

子どもたち、一人ひとりがどんな願い事を持ち、叶えていくのか。子どもたちの健やかな成長を願わずにはいられません。

＊

運動会の開催にあたっては、2回の順延、また延期の判断も遅くなり、ご心配とご迷惑をおかけしたと、お詫び申し上げます。子どもたちはそれぞれの頑張りと練習の成果を見せてくれました。

夏の暑さも盛りとなります。見守り活動をはじめ、様々な場面でのご協力に感謝申し上げますとともに、暑さ対策を十分にされますよう、お願いいたします。